

2 学年経営	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
中学校 1年	①基礎基本の定着を軸に学力向上を推進する。 ②自ら挨拶、返事が出来る態度の育成 ③当たり前のことのできる態度を培う。	①反復練習や課題・宿題をきちんと実施する。 ②面談をこまめに行い、スコラの内容確認と指導の実施 ③LHRや学年集会を通して、学習指導や生徒指導の話をする。	B	①課題提出が期限までに内容が不十分のまま提出する生徒が見られた。 ②スコラで生徒の生活実態の把握をし面談を適宜行った結果、概ね改善がみられた。 ③学習指導は、定期的に英単語大会や計算大会を実施して学力伸張を行うことができた。生徒指導については、個別対応を中心に実施した。
中学校 2年	①学習計画を立て、向上心を持って学習に取り組ませる。 ②服装や身だしなみを整え、礼儀正しい態度の育成。 ③時間の使い方を考え、充実した学校生活を送る。	①毎日の授業や家庭学習を継続させる。 ②ホームルーム時に確認し、常に声掛けを行い意識させる。 ③生活にメリハリを付け、集中した取り組みを実施させる。	B	①高い意識を持って学習に取り組む生徒が多くいる中、提出期限を守れない生徒が固定化した面もあった。 ②決められた服装を着用し、学校のきまりを守ろうと心掛けた。 ③必要事項はメモを取り、集中して取り組めるようになった。
中学校 3年	①高校課程の基礎内容の定着と家庭学習の継続を図る。 ②中学最上級生として、模範になるような服装と挨拶の徹底を図る。 ③健康管理に気を付け、充実した学校生活を送る。	①毎時間の授業に集中し、課題提出期限を守らせる。 ②毎日の登下校時の四恩塔一礼、ホームルームの充実。 ③時間厳守した行動と規則正しい生活習慣に取り組ませる。	B	①授業に集中できなかつたり、課題提出期限に遅れる者が多少見られた。 ②四恩塔一礼はだいたい良くできていた。ホームルームも落ち着いて取り組んでいた。 ③朝の遅刻者も少なく、概ね時間とおりの行動ができていた。
高校 1年	①勉強の仕方とその継続を確立させる。 ②進路希望に対して、資質で足りないところや教科学習で足りないところを知らせる。 ③新入試制度に向けての情報共有をする。	①勉強の仕方を具体的に授業において折に触れ話す。 ②HRにおいて適性検査の結果や模擬試験結果を話題にする。進学雑誌をもとに勉強させる。オープンキャンパスに積極的に参加させる。 ③生徒に様々な場面における活動日誌を残すように促す。	B	①勉強の継続ができない者が見られた。 ②模擬試験結果をその後の勉強の仕方に結びつけられない生徒が見られた。 ③一人一人にファイルを持たせ、活動証明書を保存させた。
高校 2年	①勉強の仕方と継続することを確立させる。 ②大学学部学科の内容の周知を図る。 ③進路選択をする上で生徒の適正を考えさせる。 ④新入試制度に向けての情報共有をする。 ⑤外部検定試験に向けての情報共有	①教科ごとのオリエンテーション。ノート提出などを定期的に行う。 ②HRにおいて、進学雑誌をもとに勉強させる。オープンキャンパスに積極的に参加させる。 ③進路講演会など保護者会を開く。 ④様々な記録を残していくことで、新入試制度に対応していく。 ⑤進路指導部、英語科とタイアップし、生徒・保護者との情報を共有させる。	B	①各教科と協力が出来、多くの生徒において上手くいったと感じている。 ②入試制度が変わるこの学年は多くの生徒が積極的にオープンキャンパスに参加した。また、報告書も提出を義務づけた。 ③進路講演会において、保護者と共に新入試制度に対しての情報を共有することができた。 ④各クラスにおいて、確実に報告書・様々な記録を提出をさせることができた。 ⑤外部検定試験見送りに伴い、様々な意見を交換できた。
高校 3年	①受験に向けた学力の充実。 ②志望大学・学部・学科の合格可能性を意識させる。 ③最終志望校の決定。 ④新入試制度に向けての情報共有をする。	①授業担当質問することを促し、総合力を身に付けさせる。 ②HRで模擬試験の個人データを読ませ、足りないところを意識させる。 ③志望学部と模試の判定の推移から、最終志望校を決定させる。 ④英語4技能試験への意識をさせる。	B	①質問しない者への対応が難しく今後の課題が見つかった ②志望校と学力の差を埋めるための行動に個人差が見られた。 ③面談の繰り返しにより、最終志望校を絞った。行動に移せない生徒へのねばり強い声かけがなされていなかった。 ④GTECを受験することで意識向上へつながった。

4段階評価

- A：大いに改善あり
- B：だいたい改善あり
- C：やや改善なし
- D：全く改善なし